

## 4 丈夫なアルミ製で活動に拍車！

# 「植栽いかだ」による 水質浄化と体験環境学習



団体名 特定非営利活動法人  
**印旛野菜いかだの会**

主な活動地域 千葉県西印旛沼

### 目的

全国湖沼の中で、水道水源ワーストワンの印旛沼。特に、夏場はアオコが発生し、千葉県民140万人の飲料水として健康・衛生面への影響、また水生生物の絶滅が心配される。そこで、印旛沼の水質浄化と環境保全を目的に、環境に優しい「植栽いかだ法」を使って水質の再生を図り、水辺を楽しめる清らかな水環境を取り戻す。印旛沼流域の小学校・中学校と連携して、体験環境としても活用し、水環境の大切さを伝える。

### 実施内容

会の設立当初から使用してきた木製のいかだは、破損がひどく耐久性に弱かったが、2008年に当基金で開発したアルミ製いかだはコスト面と耐久性に優れ軽量で扱いやすく、空芯菜・ハーブ等による「生物浄化システム」の確立に大きく貢献した。いかだの上では、水中の栄養分を吸収してアオコの発生を抑制する空芯菜やハーブを水耕栽培し、いかだの下には水中のにごりの元である有機物質を吸収する二枚貝(池蝶貝)をつるし、水質の浄化を図る。また、現地を体験環境教育の場としても活用する。7～10月にかけて、印旛沼流域の小・中学校と連携し、水路での体験環境学習を印旛沼の専門講師を招いて実施、水環境の大切さを伝える。

### 選考委員のひとこと

印旛沼は遠目には普通の湖だが、近づくとアオコのヘドロ！「二枚貝の中に真珠ができるほど、水質は浄化してきている」とのことだったが、昔の姿に戻すには行政の協力が必須だ。

TOTO 名古屋支社 Tさん記

### ボランティアに参加しよう！

- ★新型アルミ「いかだ」製作と進水 2009年11月
- ★冬野菜栽培(ハーブ)・水質調査 2010年 1月
- ★流域小学生印旛沼体験環境学習 2010年 7月
- ★空芯菜栽培・水質調査 2010年 9月



豊富な資料やデータを駆使した説明が印象的



アオコの発生が深刻な印旛沼



コスト高だが、アルミ製いかだは軽く丈夫で扱いやすい

